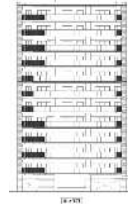


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岩倉市下本町下市場計画	階数	地下0階地上15階
建設地	愛知県岩倉市下本町下市場131番9、139番1、139番2、140番、141番、141番1	構造	RC造
用途地域	6地域	平均居住人員	271人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年6月 予定	評価の実施日	2026年1月14日
敷地面積	1,573㎡	作成者	鹿野 葵
建築面積	478㎡	確認日	2026年1月14日
延床面積	5,580㎡	確認者	鹿野 葵



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 53%

③ 上記②以外のオンサイト手法: 53%

④ 上記③のオフサイト手法: 53%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.6)

音環境	3.3
温熱環境	3.7
光・視環境	3.7
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.5)

機能性	4.2
耐用性	3.1
対応性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 2.2)

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 4.3)

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 2.9)

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	2.7
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.6)

地球温暖化への配慮	4.8
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>69.7%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0%</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3-1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
LR-2-2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3-1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
											建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル		0.1	4.0	0.15	3.3	3.3	1.00			3.3	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.50		3.0	0.50				
1 開口部遮音性能		0.5	5.0	0.50		3.6	0.50				
2 界壁遮音性能		-	5.0	1.00		5.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-		3.0	0.30				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-		3.0	0.20				
1.3 吸音		-	-	-		-	0.20				
2 温熱環境											
2.1 室温制御		0.3	2.0	0.35	4.0	4.0	1.00			3.7	
1 室温		0.5	3.0	0.50	4.0	4.0	1.00				
2 外皮性能		3.0	3.0	0.63		-	-				
3 ソーン別制御性		3.0	3.0	0.38		4.0	1.00				
2.2 湿度制御		3.0	1.0	0.20		-	-				
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.30		-	-				
3 光・視環境											
3.1 昼光利用		0.2	2.2	0.25	4.0	4.0	1.00			3.7	
1 昼光率		0.3	4.2	0.30	4.0	4.0	0.50				
2 方位別開口		3.0	5.0	0.60		5.0	0.50				
3 昼光利用設備		-	-	-		3.0	0.30				
3.2 グレア対策		3.0	3.0	0.40		3.0	0.20				
1 昼光制御		0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.50				
3.3 照度		5.0	2.0	1.00		4.0	1.00				
3.4 照明制御		3.0	1.0	0.15		-	-				
4 空気質環境											
4.1 発生源対策		0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00			3.6	
1 化学汚染物質		0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63				
4.2 換気		3.0	4.0	1.00		4.0	1.00				
1 換気量		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38				
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-		-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-		-	-				
2 喫煙の制御		3.0	-	-		-	-				
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.0	0.40	4.4	4.4	1.00			4.2	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-		5.0	1.00				
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00		-	-				
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30	3.5	3.5	0.40				
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	3.0	0.30		4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-		-	-				
3 内装計画		3.0	3.0	1.00		3.0	0.50				
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30		-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-				
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	-				
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.1	0.31		-	-			3.1	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48		-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80		-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.3	0.33		-	-				
1 躯体材料の耐用年数		-	5.0	0.23		-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	2.0	0.23		-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09		-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08		-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15		-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	2.0	0.23		-	-				
2.4 信頼性		0.1	3.2	0.19		-	-				
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20		-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20		-	-				
3 電気設備		3.0	3.0	0.20		-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20		-	-				
5 通信・情報設備		3.0	4.0	0.20		-	-				

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.2	3.2	-	0.50
1 階高のゆとり			階高2.91m		-	-	4.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ			3.0	-	-	-	2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			-	0.3	2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			敷地内緑化	-	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱等性能等級4	3.0	5.0	0.33	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			-	3.0	3.0	0.17	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.77	3.0	5.0	0.33	-	-	5.0
4 効率的運用			-	0.1	3.0	0.17	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	-	-	-
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			-	0.6	3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.21	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	木軸+PB(床・壁・天井)	3.0	4.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			-	0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	3.0	3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			-	0.6	3.0	0.68	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	-	3.0	0.50	-	-	-
3 冷媒			-	3.0	3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			①	積極的な省エネルギー対策	-	4.8	0.33	-	4.8
2 地域環境への配慮			-	0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	-	3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	-	3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			-	0.2	3.0	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			-	-	3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			-	-	3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			-	0.3	3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			-	0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			-	-	3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	1.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			-	-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			-	0.2	3.7	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリストに満たす項目あり	-	4.0	0.70	-	-	-
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-	3.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE: 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)岩倉市下本町下市場計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化: 69.7%/建物緑化: 0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)岩倉市下本町下市場計画

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー(断熱性能、LOW-Eガラス採用等)により環境に配慮した。
Q1 室内環境	開口部を大きく取り十分な採光を確保した。
Q2 サービス性能	住戸の階高を2.91m以上とし空間にゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内歩道に沿って木々を植え、道路から良好な景観とした。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器や水栓を採用した。
LR3 敷地外環境	駐車、駐輪スペースを敷地内に確保した。
その他	